

○議長（千葉 薫君） それでは、再開をいたします。

（午後 3時15分）

○議長（千葉 薫君） 一般質問を続けます。

次に、9番、下道議員の質問を許します。

9番、下道議員。

○9番（下道英明君） 12月定例会の一般質問、しんがりを務めさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

また、きょうは観光振興について中心にお伺いしてまいりますけれども、きょうは駅前イルミネーション点灯式もあるということでございますので、時間をきちっと調整しながらさせていただければと思います。

また、本日は5番目の登壇ということで、議論が多岐にわたりまして、皆様のお顔を見ますと少々お疲れのようでございますので、そこら辺のところも配慮しながら進めてまいりたいと思います。

今回は、観光振興という大きなテーマに絞りました。私は、この観光振興というのは、言葉を変えれば、自治体がお金も受けを考えるという、そういった考え方の側面もあると思いますが、ただ、そういう風潮は強いながら、地域にやはりお金を落としていくシステムということが一番大事だと思っております。そういった点でいくと、観光振興というのを自治体がしっかりと前を向いて取り組んでいただきたいと、そういう思いでございます。また、別な言葉からいえば、よく外貨を稼ぐという言葉がございますけれども、外のお金を稼ぐ、つまり日本の外から、また、北海道の中から、そしてまた、胆振の中から、お金を落としていただくと。そういうことによって、この外貨を洞爺湖町に集めて、そしてまた、それを集めたことによって、自治体においては民間から税収をいただきながら、活性化していくということが大事ではないかと。今このまま観光振興について手をこまねいていますと、恐らく数年後には、洞爺湖町の人口も知らないうちに8,000人を切ってしまうという状況も将来は出てくると思います。そういう中で、この観光振興について真正面からぜひ取り組んでいただきたいと思います。

昨日からも、3番議員のほうからも、13番議員のほうからも、観光振興についてのお話がありました。重複する場合もありますけれども、始めさせていただきたいと思います。

それでは、最初に、登別洞爺広域観光圏から既に半年といいますか、8カ月が経過したわけですけれども、3・11以降、洞爺湖、北海道、また日本を取り巻く観光、経済の環境というのは大変厳しいものがございます。そういった中で、この観光圏での8カ月間の活動の経緯というものをかいつまんでご説明していただきたいと思います。

○議長（千葉 薫君） 佐々木観光振興課参事。

○観光振興課参事（佐々木清志君） 観光圏のことでございますけれども、ことし4月に国の認定を受けてございます。当初スタートを、登別温泉、洞爺湖温泉が連携した今ま

でない新たな取り組みを始める予定でしたけれども、震災の影響もございまして、原子力発電所等の問題によるインバウンド対策という形に一部事業がすりかわってございまして、今から簡単にご説明させていただきます。

国内活動としましては、震災によります、東北方面へ修学旅行を実施している学校の緊急誘致対策、5月におきましても観光認定キャンペーンとしまして、登別温泉と洞爺湖温泉の共通利用券、招待券のプレゼント、着地型旅行商品の説明会、また、3年かかりましたけれども、横浜市蒔田中学校の洞爺湖温泉の誘致成功等がございます。その後、6月には、首都圏の教員の招聘、8月には、最重要課題でございます、圏域における共通パンフレット作成に伴いますワーキンググループが設置されてございます。そのほか、11月に入りまして、観光人材育成会、首都圏の誘致、12月に入りまして、先ほどから出ております、食をテーマとした辰巳琢郎のトークライブなどが行われております。

一方、海外向けとしましては、6月からフラワーマダム北海道誘致、首長によります台湾、韓国のトップセールス、10月に入りまして欧米人を対象としました自然歴史遺産のモニターツアー招聘、中国人におけるフェイスブック登録者による食べて学ぶモニターツアー、11月には、さきに説明しました、7月に行いました首長によるトップセールスに対します韓国エージェントの招聘、台湾エージェントの招聘、そのほか、シンガポール、マレーシア、それらのグループ検討などが行われておりますと、12月に入りますと、韓国の報奨旅行、成績優秀者の旅行ツアーなどが北海道に入ってきておりまして、ことし、登別温泉、洞爺湖温泉は上期で約20%から23%落ちておりますけれども、その部分で最も多いのが外国人でございます。これらの誘致を中心に事業を6ヶ月間行ってきたということあります。

これらの事業におきましては、国の運輸局の補助をいただきながら、積極的に誘致、招聘をしていきたいというふうに考えておりまして、来年以降につきましても、洞爺湖温泉、登別温泉を積極的にPRをしていきたいというふうに考えおります。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） ありがとうございます。今、その中でいろいろな政策を実施していると思うのですけれども、例えば、共通パンフレット云々ですとか、さまざまな国内、国外、インバウンドを問わず行っているのですが、果たしてそれが観光業者の中で、あるいは洞爺湖温泉地域で観光に携わっている人たちに対して、どれだけ情報が共有されているかというのがちょっと不思議というか、まだよくわからないのですよね。そういった点、今回の観光圏というのは、登別、洞爺ということですから、当然これは豊浦町、壮瞥町も入ってきますけれども、そういったところの大枠の中で情報が共有できないのかと、共有しているのかと、そういうところをちょっと懸念しているのですけれども。

それと、先ほど3番議員のほうからありました、女性の力というのがございました。その中で、今推進している中で、どれだけ女性が観光行政の中で立ち位置があるのかと。今、観光地で消費されている7割というのはほぼ女性です。そして、それで女性を大事

にすることによって、残念ながら、男の人はついていくというか、彼女であったり、奥さんであったり、そういうふうに後追いをしていくわけですから、そういった点で、うちの町もそうですけれども、観光振興の中でどれだけ女性を意識した、そういった女性の目線から見たもの、例えば、変な話、大きな会議、協議会とかございます。そこで、何とか温泉組合会長ですか、何とか利用組合会長ですか、皆さん大体、うちの洞爺湖町の場合は若い組合長ができましたけれども、実際はほとんど60歳から70歳の方。そうすると、今、フェイスブックといつても、ほとんどの方がフェイスブックって何という話にもなりますし、たまたま私は2週間前ですか、噴火湾文化研究所の所長さんが、下道君、フェイスブックやりなさいということで、強引に登録したのですけれども、それできのうちょうど登別洞爺広域観光圏のフェイスブックを見ました。そうしましたら、8月から更新されていないのですよね。そうすると、せっかく情報ツールがあっても、それが更新されていかない。今、参事がおっしゃったように、外国人、インバウンドの人たちがそのフェイスブック、それは日本語と英語と両方で、バイリンガルで出てきていますけれども、それを見ているけれども、8月から更新されていないと、えっという形で、もう別なところに行ってしまうのですよね。更新ということが、当町のホームページも最近すごくよくなってきていて、「しあわせのパン」にしても、非常にタイムリーに動いてきています。ただ、それにもしても、今、旅行に行くにしても、某何とか○天トラベルとか使うにしても、そのホームページにアクセスして、そこで予約して、クレジットで決済して、すべてオールインワンで終わってしまう。そういう中で、そういったものというのもすべて女性の発案というのが非常に多いのですけれども、そういった点で、登別洞爺広域観光圏の中で、どれだけ女性の発言力があるのか、そこら辺のところをお伺いしたいのですが。

○議長（千葉 薫君） 佐々木観光振興課参事。

○観光振興課参事（佐々木清志君） 先ほどおっしゃいました広域観光圏のフェイスブックについては、私ども承知しております、事務局のほうに意見を言ってございます。

それでフェイスブックと女性の部分でございますけれども、下道議員さんおっしゃいましたように、女性が来る観光地は、はっきり言いまして優秀な観光地でございます。女性の後に、変な話ですけれども、男性がついてくると今おっしゃいましたけれども、私どももはっきり言ってそういうふうに思っております。

昨年来、洞爺湖温泉は、夜になると暗い、遊歩道を女性2人で歩けないなどということも大分議論になりました、LEDの電球に取りかえて、今ですと夜も歩けると。

そのほか、はっきり言いまして、フェイスブックというかホームページの部分につきましては、観光協会が中心となって、旅館組合もそうですけれども、なかなか女性に見てもらえるようなホームページになってございません。多言語化にはなってございますけれども、魅力のあるものかというと一部疑問がございまして、観光協会におきまして、次年度に向けまして全面改正という形で、女性が中心となりまして、今、若い女性の職

員、台湾の方もいるのですけれども、そういう形で全面見直しをかける予定で今検討を進めております。

今おっしゃいました60、70歳の方も中にはいますけれども、やはり女性に好かれる、そういうようなIT部分、パンフレット、紙物もそうですけれども、改めて見直していくかなければならないというふうに考えてございます。

それと、壮瞥町、豊浦町と共有されているのかということについては、共有されておりまして、豊浦町でも、インセンティブ旅行なんかでも入ってございまして、先般も豊浦町のインディアン水車なのですけれども、大変好評で、また来たいというような韓国からのツアーも来ておりまして、積極的に壮瞥町、豊浦町とも連携していきたいというふうに考えております。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） 今、インディアン水車、これは豊浦、これも実際はツイッターでしたか、女性のほうからの発信ということで、それが最初の切り口だったと思いますけれども、結局、今そういう観光行政の中で、観光協会のほうも女性の方は多いですけれども、残念ながら、権限という点ではございません。そうすると、せっかく3市4町で観光圏をつくっているわけですから、それは市町の垣根を越えて、ぜひ、女性の力をこの胆振地域に加えて、大きな戦力としていっていただきたいと思います。

それと、今参事のほうからありましたパンフレットの件ですけれども、パンフレットというのは、昨年、最初に私一般質問したときにもそうだったのですが、なかなかパンフレット、紙物というのは難しいところがあるのですけれども、あと、どうしても行政がやっていくものというのは、みんな平等にしてしまうという、パンフレットに対して。ただ、それはつくり手側からの発想だと思うのですよね。そういう点で、一回切りのパンフレット制作ではないですから、もう少し長い期間を持ってそういう政策を振興していく中では、例えば、ある部分だけの観光施設を特集したマップがあっても、パンフレットがあってもいいと思うのですよ。そういう点で、こういった点での観光振興においての平等意識というのは全く意味がないと僕は思っているのです。それはつくり手側の意識であって、訪れる人たちの目線ではないと思いますので、ぜひ、その点をご考慮いただきたいと思います。

そして、せっかく広域観光圏になって、前々回のときにも私、観光圏整備事業について、認定されたらこれだけのメリットがあるよということを以前お示ししたのですけれども、今、参事のほうで、大まかな形でいろいろな支援についてお話をありましたけれども、現実問題として、この旅行業法の特例ですとか、あるいは社会資本整備についての配慮ですか、その他、先ほどあった共通乗車券の選定など、いろいろ共通券とかあつたと思うのですけれども、その中で特に着地型観光という点でいったときに、この広域観光圏内でございますけれども、旅行業法の特例ということで、各ホテルが宿泊客への着地型旅行商品の販売とか、こういった可能性ということで現実に法律は変わっている

わけですけれども、実際にその実施例というのがあればお示しください。

○議長（千葉 薫君） 佐々木観光振興課参事。

○観光振興課参事（佐々木清志君） ただいま実施例という、新しい商品ができましたか  
というご質問ですけれども、新しい商品としてはできておりません。現在まだ研修会等  
の資格を取得している段階でありますと、11月30日におきましても、着地型の人材研修  
がござりますと、現在、町内から体験型観光社、例えばガイドさんですとか、自然ガイド  
さんですか、3社ほどあるのですけれども、その方が着地型、魅力ある商品を開発す  
べく今研修に取り組んでおりまして、観光協会のほうも事務局サイドでは参加してお  
りますけれども、ホテルのフロント、旅客誘致の人が説明会というのに参加しているかと  
いいますと、なかなか厳しい状況ではないかと。新商品につきましては、次年度以降、  
開発されるものではないかというふうに考えております。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） 了解いたしました。

それでは、その中で、引き続き社会資本整備なのですけれども、洞爺湖温泉街を歩い  
ていますと、何人か外国人の方と会います。たまたまそういう経験をさせていただいて  
いて、呼ばれてお話しする経験があるのですが、その中で、施設に行くサインというか、  
標識ですか、そういったものが余り外国人にとっては便利ではないというところがあ  
るのですけれども、この観光圏整備事業の中で当然標識ですか、また、案内標識等景  
観整備の流れの中で整備するということになっているのですけれども、そこら辺の取り  
組みというのはいかがなのでしょうか。

○議長（千葉 薫君） 澤登観光振興課長。

○観光振興課長（澤登勝義君） 現在、広域観光圏協議会の中で、先般、幹事会がござい  
まして、各ワーキンググループを設置する運びとなってございます。その中で、各個別  
の問題について取り組んでいくという状況でございます。

また、当町においては、誘導板、それから案内板等については、ジオパーク関連でそ  
れなりに海外からのお客様を意識した取り組みの中で実施していっている。ただ、誘  
導についてという部分で、英語表記ということでございまして、今後については中国語、  
韓国語等の必要性という部分についても検討していかなければならないのかなというふ  
うに考えてございます。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） 観光圏の場合、事務局が登別にありますので、なかなかこのコミ  
ュニケーションというのはとるのも難しいのかなというのではありますけれども、ぜひ、  
この広域観光圏、せっかく認定されたわけですから、先般、観光庁長官も来られました  
けれども、そういった中で、せっかくの認定された中で有意義に利用していただきたい  
と思うのですが、あと、今ここに北海道の観光ハンドブックというのがあります。ほと  
んどの観光客の方は、地元の私どもは観光ハンドブックは余り読まないと思うのですけ

れども、ただ、当地に来る旅行者というのは、やはりハンドブック等を見ております。

その中で、一つは、北海道の観光ということになると、およそ5つのエリアに分けています。それはオホーツクエリアですね。これは雄武町から斜里町、知床。そして二つ目は釧路、根室エリアですね。三つ目は十勝エリアということで、陸別町、上士幌町から下におりてきて広尾町。そして四つ目は道南エリアの渡島半島。そして五つ目が、この洞爺湖も入りますけれども、道央エリアということで、札幌を中心に胆振、日高、後志、石狩、空知。大体ほとんどの旅行ハンドブックというのはこういう枠組みの中で行っています。そういった中で、観光客というのは、この5つのブロックでこっちのエリアに行こう、こっちのエリアに行こうということになっていると思うのですが、そういった中で、登別洞爺広域観光圏というのはなかなか連泊するということ自体が難しくなってきていると思うのですけれども、今せっかく広域観光圏がありますけれども、実際に来る観光客は、そういったエリア分けをしているので、なかなか登別観光圏といつても、まだ僕もびんとこないところがあります。たまたま今参事のほうで、成果として、インバウンドに関しては、今回、中国のコンピューター会社の観光旅行ということで、44名ですか、来たのですけれども、道内のお客様を取り込むにしても、あるいは関東からのお客様を取り込むにしても、どうしてもエリアとしてバッティングすると思うのですね。

そういった点で、今回7カ月たちましたけれども、今後、観光客の視点に立つということはなかなか難しいですけれども、そういった点で、観光行政というのですか、今まで指導して認定された中での観光圏の取り組みというのをもう少し詳しくお知らせいただきたいのですけれども。

○議長（千葉 薫君） 答弁、観光振興課参事。

○観光振興課参事（佐々木清志君） ただいま5つのエリアということで、道外のお客様もこの5つのエリアという形で、いろいろな方面に入ってきてございますけれども、観光圏の中でインバウンド、国内対策も含めてございますけれども、私たちが提案するルートというものをパンフレット化しまして配っていると。そういうものを逆に旅行会社、外国に行きますと、エージェントさんにこれとこれとこういうものを見て、札幌市に最終的にお泊まりいただいて、遊びに来ていただけませんか、国内的にも、はつきり言いますけれども、温泉場であれば登別温泉、洞爺湖温泉、今議員がおっしゃったようになかなか二泊、登別温泉に泊まって、洞爺湖温泉に泊まってというのは厳しい部分はございますけれども、その部分では洞爺湖と登別の違いをきちんと明確にして、洞爺湖の景色なら景色、温泉の質ですと、登別温泉は7つほどございますけれども、それらを明確にしてPRしているというのが現状でございまして、千歳空港に入りますと、一つの例でございますけれども、修学旅行なんか誘致でございますけれども、白老のアイヌ民族博物館、そして室蘭市の工場見学、洞爺湖温泉というような形の事業を、こういうものを提案したりしております。あくまで道央圏というのは、時計回りと時計反対回り

というのがございまして、小樽、ニセコ経由で札幌に入る、反対に千歳に入ってから札幌、小樽で遊んでから、帰り際、登別、洞爺湖というようなルートはございますけれども、これらも連携しながら、新しい魅力を提案して積極的に誘致しているのが現状だというふうに考えております。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） わかりました。大体わかるのですけれども、なかなか難しいところが。せっかく広域観光圏が登別との提携があったのですが、以前、むしろ一番近いところでいけば、連泊の可能性を考えるのであれば、例えば羊蹄山のふもとですとか、ニセコ、倶知安と連携をとりながらやっていくという、そちらのほうは現実的なものがあるのではないかと昨年ご提案していったわけなのですけれども、実際に、もう既に登別洞爺広域観光圏ということになっておりますけれども、ただ、ニセコからもかなりのお客さんが来ております。夏場に関しては、オーストラリアの方も車で洞爺湖のほうに来たり、今、観光では、冬の倶知安、ニセコのほうでいくと、トータル的にいえば、夏場のほうが去年は超えているという情報も入ってきております。

そういった中で、何も観光圏は観光圏として置いておいて、そして別に、例えばニセコ、倶知安とか、そういった後志の地域との連携という、去年の一般質問では、いわゆるシニックバイウェイということでお話しさせていただきましたけれども、やはり別なルートも持っていく。先ほどお話ししましたように、お金を落としていくというのを思い切って自治体も、観光行政の中で遠慮してやるのではなくて、この地域にお金を落とすと。それが最終的には町民の潤いにもなってくるし、やはり自治体経営の中で一番大事なのは、住民がどれだけふえているかというのが、確かに町の財政事情はいろいろあります、それは改善していくべき、それは当然のことですけれども、やはり一番分母になる人を集めるという点では、せっかくこの観光というのが一番パワーというのですか、潜在能力というのはあると思うのですよね。

前回、観光庁長官が来られました。観光庁長官は本来、こういうところに来られないと思いますけれども、たまたまこの胆振、日高地域においての、元首相のお力添えで来られたという経緯がございます。そういった中で、せっかくこういったバックボーンがあるわけですから、ぜひ、それを利用するということの中でやっていただきたいと思うのですけれども。

それと、その中で、垣根を越えた形の後志ですとか、そういったところとの連携というのが、広域観光圏の認定の後、行われているのかどうか、お聞きしたいのですが。

○議長（千葉 薫君） 佐々木観光振興課参事。

○観光振興課参事（佐々木清志君） ニセコ、倶知安、あちらの方面との連携という形でございますけれども、次の質問でちょっと用意していたものでございまして、実際、自転車競技等が後ほどの質問にもあるのですけれども、これらについて新たな取り組みとして、先般、11月には、京極、あちらのニセコ方面と自転車の競技というのですか、そ

ういうものでは連携してございます。そのほか、少年少女のサッカー大会、ここ数年やっているのですけれども、一番もととなるのは俱知安方面でのサッカー大会、北電カップ等がございまして、一番盛んな地域でございます。それらとの連携もありまして、現在、サッカー大会での経済効果のお弁当ですとか宿泊、これらについては、NPOさんの全面ご協力をいただきまして、洞爺湖町での活用がなされているという形でございます。

ニセコ方面、これからスキー客もございます。それらについて、当町管内はなかなかスキー場がないのですけれども、長期滞在における温泉場として、積極的に誘致してまいりたいというふうに考えております。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） わかりました。ただ、行政というのはどうしても前例ですか、ルールを重んじる傾向がございます。そして、ましてや広域観光圏ということで、ほかのエリアにいろいろなお話を持っていくということはちょっとなかなか難しいと思いますけれども、やはり観光というのは、ある面では何でもあります。例えば、これからお話しします農業ですか、あるいは漁業とか、いろいろ絡んでくるところだと思いますので、そういう点で、ぜひ、行政、振興局の垣根を越えて、後志との連携を深めていただければと思うのですが、町長いかがでしょう、登別洞爺観光圏と当然なっておりますけれども、やはりそれとは別に、ニセコですか、俱知安ですか、そういったところのルートのさらなる構築というのをお願いできないのかなと思います。

○議長（千葉 薫君） 真屋町長。

○町長（真屋敏春君） 今、担当課のほうから、ニセコあるいは俱知安のほうとも連携をとっているという話をさせていただきましたが、実は行政的にも、私どもニセコの町長さん、俱知安の町長さん、あるいは真狩の村長さんとも話す機会がございます。何とか連携をとって。向こうの方々にとって見れば、洞爺湖というのは非常に魅力があると。いわゆる湖があって、非常に景観のいいところだということもございます。そういう面では、いろいろとこれからも連携をとってまいりたいなと。

先ほど佐々木参事のほうからありましたように、もう既に提携している部分もありますが、ことしのツーデーマーチには、たしかニセコ町さんの管轄だったかなと思いますが、ある組織、グループがあります。来年ぜひ洞爺湖で、その団体が主催するものも開催してみたいという計画もあるよう聞いておりますので、そこら辺はきっちりこれからも連携をとってまいりたいなというふうにも思っております。

とにもかくにも、登別洞爺広域観光圏は観光圏として、小樽あるいは札幌、そしてニセコ、函館、こちらのほうとも当町は連携をとってまいりたいというふうに考えております。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） ぜひ、行政の垣根を越えた動きをしていただきたいと思います。

よろしくお願ひいたします。

それでは、2番目の質問のほうに入ってまいりたいと思います。

スポーツ観光、スポーツツーリズムが地域活性化の起爆剤となるという可能性について、以前、言及させていただきましたけれども、特に、先ほどお話ししましたように、先般、溝畠観光庁長官が来られました。その懇親会の中でも、かなりスポーツツーリズムについて言及されていたと思います。

そしてまた、洞爺湖マラソンですか、あるいは、先ほど参事が言及されておりました自転車、先般、グランファンドですか、自転車ですね、その大会があるということをお聞きしまして、朝6時半ぐらいに来いと言われまして、6時半に行きました。そして、スタートのほうと、その前にちょうど浅草から来た方がいらっしゃいまして、その方といろいろお話しして、この自転車の可能性はどうですかということでお聞きしたりしていたのですけれども、非常にこの地域、北海道の特に洞爺湖の地域はおもしろいと、楽しみにしているというふうに言っておりました。そういった点で、朝6時、早かったですけれども、ぱっと目が覚めまして、これはすごく可能性があるのかなと思ったのですけれども。

そしてまた、その行程を見ますと、京極のほうまでエイドステーションがあって、京極のほうへと行って、また水の駅へと行って、広範囲になっているのですよね。そういう点で、先ほど話したニセコ、登別ではないですけれども、洞爺ではないですけれども、新しいそういうルート分けができれば、ルートの取り組みをしていけば、さらなる観光客というか、スポーツを楽しむお客様が来ると思うのですけれども、先ほどさらりと言及されましたけれども、洞爺湖町のスポーツツーリズムに対する今後のスケジュールというのをお知らせいただければと思います。

○議長（千葉 薫君） 佐々木観光振興課参事。

○観光振興課参事（佐々木清志君） ただいまの質問でございますけれども、洞爺湖町の来年のスポーツの関係でございますけれども、まず国におきまして、来年4月に向けて全国組織を立ち上げるという状況でお話が来てございます。

来年のスポーツ関係でございますけれども、洞爺湖マラソンというものがまず最大でございまして、近年の健康志向ですか、競技性の向上等もございまして、年々参加者が多く来てございます。

これらについて今後どうしていくのかといいますと、一層のお客様を集客するために何が必要かということを今現在検討してございます。ホノルルマラソンとか、時間制限がないのであれば、お客様はたくさん来るのですけれども、国道等の問題がございまして、現在、警察のほうから許可いただいているのが、30分間の5時間半足切りという形での許可をいただいて、来年からは足切りは5時間半という形で許可をいただいております。

そのほか、現在、申込期間は3月いっぱいやっておりますけれども、受付期間を延ば

すというのですか、お客様を確保したいという形での受け入れ態勢で、お客様の都合に合わせた取り組みを進めてございます。

なお、マラソンにつきましては、2年後ですけれども、第40回というこの記念大会もございますので、今、5,700名ですけれども、毎年毎年多くなるような改善策、努力をしていきたいというふうに考えております。

そのほか、ツーダーマーチですけれども、一昨年までツーダーマーチにつきましては、秋のシルバーウィーク期間に開催しておりますと、本州方面の参加者から、航空運賃が高い時期だということも意見がございまして、1週早めてございます。これらについても、日本歩け歩け協会と協議しながら、参加しやすい体制づくりということを考えております。

それで、今、議員おっしゃいました自転車ということでございますけれども、ここ数年、夏場、洞爺湖畔にヘルメットというのですか、鳥の形のようなヘルメットなのですけれども、高級自転車、約50万円から100万円するような自転車なのですけれども、大変多くございます。それで、来年につきましては、北海道サイクリング協会というのが50周年でございまして、50周年記念大会を洞爺湖温泉で開催するということで決定してございます。

そのほか、サイクリングツアーアー協会というもう一方の団体がございまして、先ほど言いました、イタリアを中心に盛んでございます、1日約140キロから200キロ走るという、これは競技でございませんので、なるべく車の少ないところをゆっくり景色を見て進むというようなことでございまして、ことし約40名ぐらいの参加で試験的に実施してございますけれども、来年から本格的に開催したいということの申し入れをいただいております。

これらのほかに、昨年初めて実施しました車の全日本ラリー選手権、これについても6月の一番最後の週か7月に開催ということでございます。また、NPOが誘致してございます少年少女サッカー大会、これについて2年が経過しておりますけれども、4月のときに雪が少ないということで好評をいただいております。それで、ことしにつきましても、3大会で約1,200人ほどの動員をいただきまして、洞爺湖温泉近隣にお泊まりいただいていると。これらについても先ほど申し上げましたけれども、NPOの活動が評価されまして、倅知安での1,200名の大会に対しまして、お昼御飯、お弁当ですけれども、これらの発注はすべて洞爺湖温泉というような、先ほどおっしゃいました地産地消の地元食材を使ったお弁当が好評でございまして、そういうような新たな取り組みなんかも行われております。

年間を通じて、景色のすばらしい洞爺湖温泉でスポーツを中心とした新たな取り組みということで、観光協会と連携して積極的に推進してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） わかりました。大体、スポーツツーリズムに関して一生懸命やつていただいているのだなと。特に自転車は、非常にこれは可能性があると思います。

ある調査によりますと、観光というのは、観光地で観光客が一番印象に残るものは何かといいますと、それは食事とトイレだと。これは生理的な欲求でございますけれども、やはりおいしい食事ときれいなトイレが一番印象に残ると。とてもおいしい料理で、トイレの掃除がきちんと行き届いていないと、そちらのほうが非常に印象に残るという言葉がございます。そういう点では、この自転車ですかは、特に水の駅、あと道の駅が、当町におきましては道の駅が二つもありますし、あと水の駅もございます。そういったところで、そこの水の駅、道の駅を使って何かそういった町ぐるみのスポーツツーリズムができないのかなと思います。ぜひ、これは大きなアドバンテージですので、そこを利用する手はないのではないかと。

そしてまた、今お話にあった自動車でございますけれども、これはことしたまたま偶然、当町のほうに入ってきたと思うのですけれども、経緯は別としても、来年以降もかなり来るということで、ファンの方が非常に多いですよね。そういう点で、自動車に関しましても、やはり集客能力というのは非常に高い、そしてまた、自動車のオーナーも富裕層の方が多いわけですから、一つ車がクラッシュすると1,500万円ぐらいかかるてしまうというか、普通の車ですけれども、車体が200万円ぐらいですけれども、実際は改造して1,000万ちょっとになっていると。非常に富裕層のスポーツですから、こういった層を取り込むというのも、これから観光客のウイングを広げていく点では非常にいいものだと思います。ぜひ、そこら辺のところを利用していただきたいと思います。

あと洞爺湖マラソンについてですけれども、マラソンについて以前一般質問させていただきました。その中で、先ほどありましたように、3年後ですか、40回大会、ツーマーチは来年記念大会ということですけれども、ぜひ、これは洞爺湖温泉を出発点とするだけではなくて、前回お話ししたように、例えば洞爺駅、きょう夕方ありますけれども、あそこを起点にすると、町ぐるみでやっていく。今の観光はやっぱり町ぐるみ。観光客は物語を追求していると。そういうところがあると思うのですよね。そういう点で、民間だけでは今もう疲弊していますから、やはり行政の力を加えながらやっていかなければいけない。本来は、観光というのは民間の力でやっていくというのが、恐らくそれが基本理念なのでしょうけれども、ただ、先ほどお話ししたように、もうこれだけ疲弊してきた中で、そしてまた、観光というのは何でもありの世界ですから、ぜひ、そういう中で、何でもありというのはいい面での何でもありますけれども、いろいろな業種と絡んでいくという点では巻き込んでいけるので、ぜひ、これを中核として押さえいただきたいと思います。

その中で、次の質問に入していくのですけれども、次の3番目の質問に入ります。

その中で、来て見て帰る観光から着地型観光に対して論じて久しいと。そしてまた、

観光産業を論じて久しい中で、特に農業観光のグリーンツーリズム、あるいは漁業に親しむ観光漁業、また、環境学習、修学旅行誘致、あと縄文遺跡等々ございます。これ、すべて観光振興課が基本的には窓口になっておりますけれども、なかなか非常に難しいというか、よそから見たときに、ワンストップで、例えば、行政のワンストップとありますけれども、観光振興のワンストップというのはなかなかないと思うのですね。そういった点で、観光業者にしても利用者にしても、利用者は別としても、観光業者としては、どこの課に行けばお話ができるのかと。

例えば、一つ例を挙げますと、今回、縄文まつり、去年、ことしと私手伝いましたけれども、教育委員会のほうでやっていると思うのですけれども、もっと人が集まつてもおかしくないのではないのかなというか、それは町民の中のサークルとして、町民の中で楽しむというのもいいのですけれども、一つ手を加えることによって大きな観光資源になっていくと思うのですよね。

特に、例えば北黄金なんかはバスが来ています。この間、8月何日でしたか、北黄金がありました。私も行ってきました。そうしましたら、やっぱりバスで来ているのですよ。そういった点で、やはりどこかで仕掛けをする。噴火湾文化研究所の大島所長に聞くと、みんなやっぱり行政はかなりやっているよということで、それを聞いてちょっと僕はショックを受けてしまったのですけれども、実際に去年、ことしと縄文まつりをやっていますけれども、教育委員会としては、観光振興課とか、そういった連携というのはとられているのでしょうか。その点、お伺いします。

○議長（千葉 薫君） 天野社会教育課長。

○社会教育課長（天野英樹君） 当町の縄文まつりですが、実はことしで3回目でございます。ということで、各町内の団体等にお願いをして実行委員会を組んで実施してございますが、まだまだ手探りということで、言われたように、北黄金のほうはことしでたしか14回目だったと思います。ということで、地域も巻き込んだり、私も見に行きましたけれども、ビールだとか相当な食べるものだとかいろいろあります。まだまだ追いつくには大分時間がかかるなということで、実際に見てきておりました。

ということで、観光とはまだ連携の域までいっていないというのが実情でございます。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） ちょうどことしの縄文まつりの実行委員も、たまたま郷土研究会ということで私も実行委員に入ったのですが、メンバーを見ますと、元教育長さんですか、そういった形で非常に狭められて、あと自治会ですよね。今回、自治会の方が非常に手伝いされていましたけれども。ただ、もっと工夫すれば200人が300人、昨年はたしか320人か330人ぐらい、ことしは3分の1前後ということになると、来年50人ぐらいになってしまうのという話になりますので、そうすると何かそこで仕掛けをしていくというか、どうしてもそこは縦割りというのですか、例えば産業にしてもそうですが、今これから産業課のほう、きょう伝課長が一生懸命答弁しているので、き

ようは一番の頑張り屋さんだと思うのですが、例えば、月浦のお祭りにしても、産業まつりとかにしても、例えば、やりようによつてはもっともつといつぱいになつてしまつというか、あると思うのですけれども、産業課のほうとしては、例えば観光振興課とか、あるいは観光協会とか、そういういたところと、もっと極端に言うと、せっかく広域観光圏ができたわけですけれども、協議会とのそういういた連携とか、そういう連絡というのはしているのでしょうか。

○議長（千葉 薫君） 伝産業課長。

○産業課長（伝 正宏君） 基本的には、観光に絡むといいますか、地場産品等、産業と観光が絡むものにつきましては、観光振興課と協議をしながら、委員さんで出てもらつたり、そういうような形で協力体制をしいております。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） あと産業課の場合、今回、私、グリーンツーリズムというふうに言いましたけれども、グリーンツーリズムといえば、何か少しかたくなつて、何時何分に集まつて、例えば、野菜をとりに行きましょうよとか、というかた苦しく考へると思うのですけれども、現実にはそうではないと思うのですよね。そのオプションツアーやいうことでいけば、例えば、実際に、本当に都会の人というのには田舎の風景というか、例えば、札幌ぐらいならあれでしようけれども、関東圏とかになると、そういう風景というのを見ること自体が感激してくるわけですよね。今回の「しあわせのパン」もそうですけれども、やはり東京から来て、風景がいいところで、住み着いてしまうというストーリーだと思うのですけれども、そういういた中で、グリーンツーリズムとかそういういたかたく考へないで、ふだんから、例えば朝の農家さんの忙しい時間帯を外して、ちょっと余り中に入つてしまふと商品を傷めてしまつたら困るので、入り口だけでも、例えば洞爺地区のほう、大原ですとか成香ですとか、ああいったところで羊蹄山をバックにして、あそこの風景に立つてはいるだけでもう既にグリーンツーリズムなのですね。そういういた点で、そこら辺の頭の柔軟性というのですか、切りかえながら、観光振興ということを取り組んでいただきたいと思うのですけれども、そのところの取り組みについてのご意見をお伺いしたいのですけれども。

○議長（千葉 薫君） 伝産業課長。

○産業課長（伝 正宏君） うちの農業の場合、なかなか農業者が対応するということは厳しい面がありますけれども、今言われたようなことでは、十分その要素はほかの地域よりも持つてゐるというふうに考えております。

それと私ども、実現しないで、私の口から言うのもちょっと問題かもわかりませんが、農業研修センターという施設がございます。ここには職員も配置されておりまして、農業体験であれば、そういうような農業研修センターの圃場ですとか、また展望台ですとか、また農業の説明なんかも対応できるような職員もおりますので、今後は、人員の関係もありますが、農業研修センターも含めたグリーンツーリズムといいますか、そういう

うものが推進されていけば、よりいいのではないのかなというふうに考えております。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） わかりました。

あと、例えば、新聞紙上で以前ありましたように、洞爺湖の漁業協同組合との、網ですか、子供たちを巻き込んで、ヒメマスとかサクラマスではないですけれども、稚魚の放流ですとかありますけれども、こういったものの窓口というのは、やっぱり産業課になってしまうのですよね。

○議長（千葉 薫君） 伝産業課長。

○産業課長（伝 正宏君） その関係でございますが、稚魚の放流については、教育的な立場といいますか、例えば、洞爺湖の内水面組合長さんおられますが、放流するときは、洞爺湖温泉小学校の子供たちとともに放流をして、新聞等で報道していると思いますけれども、今現在やっている内容としましては、教育的な観点から協力をいただいて、そのような形をとっているということでございます。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） 大体わかりました。

例えば、今回、ことしの場合は、日本ジオパーク大会ということで、自然の公園の集まりですか、そういう形になってきて、環境学習という切り口があると思うのですけれども、例えば修学旅行生ですか、洞爺湖で環境学習をしたいとか、火山に登って、火山マイスターと一緒に行きたいとか、こういったときの窓口というのは実際どこになるのでしょうか。

○議長（千葉 薫君） 答弁。観光振興課長。

○観光振興課長（澤登勝義君） 環境問題についての学習の受け入れ、内容にもよるのですけれども、例えば、うちのほうで所管してございます西山・金比羅、その施設利用というふうになりますと観光振興課の所管というふうになってございます。

私どものほうに来ていただければ、ある程度、そういう環境関係についての施設は違っていても対応することになろうかと思いますので、こういった部分では、ほぼうちの管轄になるかなというふうに思います。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） わかりました。

それで、例えば今回ジオパーク、自然は環境。では、今度、洞爺湖の水質調査ですか、水物ですか、ウチダザリガニとか、こういった駆除の体験学習をしたい、今回7月、8月、JICAがウチダザリガニで駆除をしたときにちょうど私も帯同させていただいたのですけれども、こういったときのウチダザリガニというのもやはり観光振興課が窓口になるのでしょうか。

○議長（千葉 薫君） 伝産業課長。

○産業課長（伝 正宏君） ウチダザリガニの関係でございますが、これにつきましては、

洞爺湖生物多様性保全対策協議会というのがございます。それとウチダザリガニを駆除する場合には、やはり環境の問題でございます。それと外来生物の規制の関係もございますので、一定の手続をしていただくということで、その洞爺湖生物多様性保全対策協議会に手続をとってもらうということになります。それで事務局が、去年までは私ども、ことしからは壮瞥町の経済環境課が窓口になって、その対応をしているという内容でございます。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） 実は、本当は企画防災課に振りたくて急遽やったのですけれども、要は、観光振興の窓口はいろいろあるよということをお示ししたくて、企画防災ではなかったかなと、大西課長のところではないかなと思ったのですけれども、やはり違ったのですけれども、ただ、要は、観光資源というの多岐にわたっております。

先般、虻田発電所が土木遺産になったということで、新聞の記事に出ておりました。これは昭和14年設置で、今も現役という形で、ことし道内で3件選定の中で、発電所が土木遺産という形になりました。では、この記事を見て、土木遺産を小学生、中学生が見学したいよといったときに、これは北電に行くのでしょうかけれども、ただ、それにしても、例えば、一般の方はやはりいきなり北電に行けないとか、町内ですから、とりあえず役場に電話してみようよということもあると思うのですよね。そういった点で、地元にいながら、地元の人が価値を見誤っているわけではないのですけれども、外から見た洞爺湖町というのが結構立派に、いろいろなことがあるよというのが最近多くなってきてていると思うのですね。

そういった点で、各課に分かれている観光振興について、いきなり課をつくるわけにはいきません。当然、今、財政事情もございます。人員も非常に厳しくなっている状況の中で、そういった中ですけれども、常日ごろ町長のほうからも、町政執行の中でおもてなしという言葉を聞きます。実際に、例えば四国ですか、あるいは九州ですか山陰のほうでは、自治体の中におもてなし課という言葉で設置されているところがございます。これは観光振興のオールインワンでございます。

そういった点で、ぜひ、洞爺湖町がおもてなし課、人数の多寡はわかりませんけれども、やはりそういった流れを今後行政の中で、観光行政のワンストップというのは絶対必要だと思うのですね。そういった点で、今後、推進室かどうかわからないのですけれども、そういう趣旨で私は今回一般質問に提案させていただきました。

いずれにしても、農業の観光、漁業の観光、火山の観光、湖の観光にしても、いろいろな観光がある中で、観光業者にても大きく洞爺湖町とタイアップしたいといったときに、産業課に行かなければいけない、観光振興課に行かなければいけない、あるいは企画防災課に行かなければいけない、ほかに行かなければいけないということではなくて、やはりワンストップ、スポーツならスポーツで、スポーツだってこれはきょう洞爺総合支所の絡みも出てくるし、一生懸命やっているところもあったり、あるいは、どこ

に窓口があるのかと、非常に不透明さが出てくると思うので、そういう点での、やはりこれから観光振興は外貨を稼ぐ、もう思い切って、洞爺湖町はおもてなし課があるのだよと、この洞爺湖町の中でおもてなし課があって、ワンストップであるのだよと、そういうぐらいの他自治体と違うのだよというところを、ぜひ、そういう意気込みを持って取り組んでいただきたいのですけれども、きょうちょうどメディアの記者さんも来ておりますので、ひとつ、新聞記事のネタにもなるように、洞爺湖町は観光振興を一生懸命やっているよと、真屋町長は何かすごいことをやるよということで、スクープなぐらいで、何か一つお言葉をいただきたいと思います。

○議長（千葉 薫君） 真屋町長。

○町長（真屋敏春君） ただいま一生懸命しりをたたかれましたので、今すぐいつからどうするという具体的な項目は発表できませんけれども、できれば新年度から、ちょっと違う形のもので、おもてなしの心を表面に出していくみたいなど。今それをちょっと温めています、職員ともまだ協議をしていないですから、それが決まり次第、ご報告をさせていただきたいなというふうに思っております。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） わかりました。せっかくスクープがあったと思ったのですけれども、ないので、以上で私の一般質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（千葉 薫君） 9番、下道議員の質問を終わります。

これで、一般質問はすべて終了をいたしました。

ここで、お諮りをいたします。

本日の会議はこれで延会としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（千葉 薫君） ご異議なしと認めます。

したがって、本日は、これで延会することに決定をいたしました。

---

#### ◎延会の宣告

○議長（千葉 薫君） 本日は、これで延会します。

ご苦労さまでございました。

（午後 4時10分）